

【市政懇談会 質疑応答】 コア大空（平成 25 年 8 月 21 日（水） 18:30）

【参加者 A】

釧路市内は、老朽化して傾いた空き家が数多くあると思うが、そういった状況について市としてどう考えているのか伺いたい。

【市長】

空き家問題は大きな課題となっており、議会でも議論の対象となっています。実際、道内自治体では滝川市等で条例をつくって、空き家の撤去対策に取り組んでいますが、執行には至っていません。また、先日の報道によると、国では、空き家の全国的な問題を反映して、空き家対策をしっかりと行うために法律化を検討しているとの動きもあります。こうしたことで空き家対策が進むのではないかと思います。

日本の法律は個人の権利と公の利益では個人を優先する仕組みにありますので、結果として個人が強くなる傾向にあります。一方、欧米はその逆の傾向にあり、公の利益が優先されています。そのため、今後法律でどこまで踏み込めるか分かりませんが、対応できるところはしっかり対応していきたいと思います。

【参加者 B】

今年 6 月頃、近所の小学生が T 字路で車との事故に巻き込まれた。私どもの方で危険があると判断して、警察に通路に一時停止線などの白線だけでも引くことはできないかと相談したが、警察では対応できない旨の返答があった。なんとかできないもののでしょうか。

【市民環境部長】

市では、道路に関連してさまざまな要望を頂きます。今回、直接警察と話をされたと思いますが、町内会を通じて市へ要望を出して頂き、更に警察への働きかけを行いたいと思います。交通安全に関する許認可は、基本的に北海道公安委員会にあるため、事故の現場を確認させていただきたいと思います。

【市長】

実際に小学生が事故に会ってしまったという事実がある中で、安全性の観点から市としてどういった対応ができるか、警察等とも相談したいと思います。すでに横断歩道や信号機などの設置について相談する仕組みはありますので、場所を教えてください。

【参加者 B】

詳細な場所は、桜ヶ岡中学校のすぐそばなのでお伝えします。

もう1つあります。先日、市連町通信を読んでいたら、老人クラブの助成金について記事が掲載されていた。町内会館への助成金は、市の財政状況が悪いため減額されているが、ある老人クラブでは市から助成金をもらうために、他地区から人を連れて来て人数の条件を無理やり満たしているところがあると書いていた。

一方、町内会では助成金を減らされているため、地域で持ち出ししているところすらある。これは、非常に矛盾していると感じている。

【市長】

町内会と老人クラブは、それぞれ地域で取り組んできた流れがあったと思います。老人クラブを作っていく中で、助成金等を含めた仕組みが作られたものと考えています。老人クラブ連合会に対する助成金等については、組織を作っていくことに対するものについては助成していますが、これまで市で行っていた湯治運動等は見直していただき、老人クラブの独自事業に位置付けていただきました。根本的には、ご高齢の方が老人クラブのさまざまな活動を通じて元気に生活をして頂きたい、との思いがある中で仕組みを作った経過があり、その中で見直しを行ってきたと考えています。

【参加者B】

老人クラブが大切なことは十分理解しています。現在の町内会の課題として、運営を年寄りが行っているため、若い人が加入しにくいという話がありますが、現実には町内会を運営する人がいません。特に公務員がやらないといった状況にある。町内会について、もう少し助成も含め考えてほしい。

【市長】

町内会の加入については、以前から積極的に取り組んでいます。一人一人の意識を変えていくしかないと思っています。現在、市職員の加入率は76%前後ですが、市職員に対しては、万一、町内会がなくなった場合、地域はどうなるのかを考えるよう日頃から話しています。

以前、山形県から来た大学生と、町内会の加入について話をしたことがありましたが、若い人でもしっかりとした考えを持っている人はいます。

東日本大震災で自助・公助・共助が言われましたが、やはり公助には限界があると考えています。実際、市で約10名の市民の方を避難するのに2時間を要しましたが、入舟地区では町内会の中でお互いを助ける仕組みが出来たので、2人の要援護者を避難所にお連れするのに20分で対応できました。これこそ、町内会の力であり、進めていくことだと感じました。

今後も、さまざまな場所で町内会の重要性について、繰り返し話して加入をお願いしたいと考えています。

【参加者C】

ホームページで過去の市政懇談会を見てきたが、ほとんど同じ年代の方ばかりが参加していると感じた。30歳代などの働き盛りの世代が全然参加していないが、どう考えているのか伺いたい。

【市長】

市政懇談会の開催にあたり、以前よりも細かく地域を区切っていることもありますが、進め方に課題があると考えています。また、地域の中で一度に多くの方が参加することは難しいとも考えています。そのため、さまざまな団体と話をする機会がありますので、そうした場面を生かして、市の考え方をしっかり伝えていきたいと考えています。

【参加者C】

大学等の講義で駅前の活性化といったテーマで議論したときに、車の保有率が高い釧路市では市民の駅利用頻度が決して高いわけではないので、駅前活性化の話は馴染まないと言われたことがあった。そのため、市の財政状況や取り組みをもっと若い人に対して伝えて欲しい。

【市長】

駅については、これからも取り組んでいく重要な内容だと考えています。これまで行われてきたまちづくりの議論は、その地域に住んでいる人を中心に進めてきました。しかし、人口減少社会となった今、その地域の人だけではなく、外からの来る人のことも当然意識することが必要になります。駅のあり方は、その街の品格にもつながるのではないかと思いますので、今後、大学とも相談しながら議論を進めていきたいと考えています。